

レファレンス

コーナー

グローバリゼーション入門

橋本真治

一九九〇年代に入り急速に進展したグローバリゼーションは、二一世紀においてさらに加速することは明らかである。グローバリゼーションは、経済面にとどまらず、世界中の人々の毎日の生活に様々な形で影響を及ぼしている。グローバリゼーションとは何か、その鳥瞰図を得るため、アジ研図書館の所蔵している資料のなかからいくつか紹介したい。

『グローバリゼーションと人間開発』（UNDP人間開発報告書1999、国際協力出版会、一九九九年一〇月刊、請求記号 C339.N1）。「グローバリゼーションは経済だけでなく、文化や技術やガバナンスを統合する過程でもある。世界中どこにおいても人々は世界の遠く離れた場所で起きた事件の影響を受け、お互いに関わり合うようになっていく。」本書は、人々の真の幸福とは何かに焦点を据え、貧困の撲滅、平等の実現等こそがその大前提とし、グローバル化がもたらしている

様々な問題を網羅的に分析している。グローバリゼーションと開発問題を考えるうえで必読の書である。巻末の国別のHDI（人間開発指数）など貴重なデータも豊富である。

『二一世紀の問題群——持続可能な発展への途』（佐和隆光編著、新潮社、二〇〇〇年三月刊、AA338.92.N1）は、アメリカ主導の経済のグローバリゼーションに警鐘を鳴らし、グローバリゼーションのプラスの側面を引き出すために三つの対応——複数の基軸通貨、市場原理主義から環境配慮型への転換、通信インフラの地球規模での整備——を提案している。また、二一世紀の主な問題として、人口、都市化、食糧、資源・エネルギー、環境の五つの問題を掲げ、持続可能な発展のシナリオを地球規模で検討している。これからの世界を考えるうえで、諸問題を概観できる好著である。

『開発とグローバリゼーション』（土生長穂編、柏書房、二〇〇〇年四月刊、C338.92.K7）本書は、次の八項目の視点と四つの発展途上地域別にグローバリゼーションを分析している。第一部では、開発と国際金融、貿易、環境、ジェンダー、人権、再分配、地方自治、国家の観点から分析し、第二部「二一世紀世界の開発」として、アジア、中東、アフリカ、ラテンアメリカについて、一部地域では国別に開発問題の現状と問題点および展望を分析している。「ASEANの現状は、グローバル

化の中で近代を絶対視し、それに疑うことなく邁進している過程である。しかし、近代を相対化してみれば、ASEANは「成功」という一言では片づけられない重要な問題を提議していると言える」という結論は、開発優先への厳しい反省として重く受け止める必要がある。

『グローバリゼーションの光と影——二一世紀世界の経済・政治・社会——』（加藤義喜・青木一能編著、文真堂、二〇〇一年二月刊、G330.191.G11）本書は、三部から構成されているが、その第二部二一世紀の諸相において、環境・エネルギー問題のほかに、前掲書では取り上げていない、キリスト教文化と欧米社会、イスラム原理主義の行方、儒教文化圏の行方に三章を割き、生活の原点でもある宗教的な側面から分析を行っている。

『開発戦略の再検討——課題と展望——』（大野幸一・錦見浩司編、アジア経済研究所、二〇〇〇年三月刊、C338.92.A3）本書は、当研究所の「二一世紀の開発戦略研究事業」の一環として実施された「開発戦略論の再検討」研究会の成果である。開発戦略を考えるための分析枠組みの構築を目指したものである。その第二章「グローバル化と開発戦略」において、政府（国家）の役割を分析し、グローバル化が増幅する市場の機能不全に対応するため、「国民国家は正当な経済的枠組みの基準であり続ける」としている。

『途上国のグローバリゼーション——自立的発展は可能か——』（大野健一著、東洋経済新報社、二〇〇一年二月第二刷刊、AA337.T5）は、第一回大佛次郎論壇賞の受賞作である。ベトナムと中央アジアを例にわかりやすく個々の途上国の条件にあったコントロールされたグローバリゼーションの必要性を訴えている。これらの資料から共通して読みとれることは、グローバリゼーションは、単一な国際標準を押しつけるのではなく、個々の国の実情にあわせて検討すると同時に、受ける側もそれぞれの国家・政府が自国の状況に応じて適切な国際化を行うことが重要、ということのようである。

当館の所蔵ではないが、雑誌論文を二つ紹介する。「グローバリゼーションと途上国」（黒崎卓・山形辰史著、『経済セミナー』二〇〇二年三月号所収）は、簡潔にそのプラス面、マイナス面を分析している。世銀のエコノミスト等による「人間の顔をしたグローバル化をめざせ」。「グローバル化が世界の貧困層を救う」（論座）二〇〇二年三月号所収）は、反グローバリズムへの反論である。

またCSGR（Centre for the Studies of Globalisation and Regionalisation）
http://www.warwick.ac.uk/facsoec/CSGR/About.html の研究成果も参照されたい。

（はしもと しんじ／図書館長）